

# 石門心学研究文献目録

山本眞功

この目録は、一九七九年刊行の『石田梅岩の思想』（ペリカン社刊）に収録された「心学研究文献」を増補して二〇〇六年刊行の『石門心学の思想』（ペリカン社刊）に掲載した「研究文献目録」を更に増補したものであるが、書名や論文題目中の「梅巖」「堵菴」とされることもある人名表記は、すべて前回および前々回に倣って「梅岩」「堵庵」に統一した。使用漢字も同様に原則として現行の字体に改めた。

著書や論文の著述者表記に本名と号を併用していたり、同一人であっても旧姓での発表論文があるといったような場合があるが、発表時の人名表記は改めなかった。検索の際の便宜を考えての措置である。

また、学会誌や紀要等の逐次刊行物に掲載した論考を、後に刊行した単行本に収めているような例があるが、それらについては原則的に初出のみの記載とした。

副題の付し方は論考によって様々であるが、本目録においてはすべて「――」を用いて記した。

なお、石門心学に関係する研究誌については、同名同号表記であっても発行時期のみならず発行主体までも異なる場合がある。それぞれの論文の掲載研究誌の発行主体については、以下に示す発行期間を参考にして特定していただきたい。

こころ（石門心学会）	1～132	昭28～62
こころ（復刊）（石門心学会）	1～1	平13
心学（心学参前舎）	1～121	昭7～17
心学（石門心学振興会）	122～138	昭17～19
心学（石門心学会）	1～11	昭24～27
心学（「心学道話」改題）（心学参前舎）	1～8	昭40～47
心学道話（参前舎）	1～43	大11～昭9
心学道話（心学参前舎）	1～63	昭26～38
心学道話（復刊）（心学参前舎）	1～13	昭53～平1

## 原典の覆刻本

赤堀又次郎（編）『心学叢書』全六編、博文館、明37～38。

《第一編》売卜先生安楽伝授、売卜先生糠俵、売卜先生糠俵後編、齊家論、銭湯新話、民の繁栄。《第二編》松翁道話、雨やどり、孝行になるの伝授、福相になるの伝授、目の前、勧善小語。《第三編》御代の恩沢、銀のなる木の伝授、和合長久の伝授、都鄙問答。《第四編》立身始末鑑、案山子草、鳩翁道話。《第五編》鸚鵡問答、有べかり、五用心慎草、長命になるの伝授、道のこだま、道得問答、聖賢証語国字解、身体柱立。《第六編》やしなひ草、為学玉箒、男子女子前訓、石田先生事蹟。

足立栗園（編）『日本道德叢書』全三編、開発社、明34～35。

《第一編》都鄙問答、会友大旨。《第二編》都鄙問答続。《第三編》道得問答。

同前（校訂）『都鄙問答』、岩波文庫、昭10。

池田市史編纂委員会（編）『池田市史資料編』第七卷所収、「立教舎心学関係

資料」、池田市、昭62。

石川謙『心学精粹』（日本精神叢書11）、文部省思想局、昭9（日本文化協会出版部・昭10、光文社・昭14、内閣印刷局・昭15）。

同前（校訂）『鳩翁道話』、岩波文庫、昭10。

同前（校訂）『道二翁道話』、岩波文庫、昭10。

同前（校訂）『松翁道話』、岩波文庫、昭11。

同前（校訂）『愚翁道話』、光風館、昭16。

同前（編）『心学道話精粹』、大日本雄弁会講談社、昭22。

道二翁道話、続々鳩翁道話、心学道の話、雨やどり、目の前、松翁道話、心学道話聴聞の図。

同前（編）『心学者の言葉』（教育文庫）、金子書房、昭27。

石田梅岩篇（勝部真長）、手島堵庵篇（古田紹欽）、中沢道二篇（長谷川鑑平）、奥田頼杖篇（縄田二郎）、宮本愚翁篇（縄田二郎）。

同前(校註)『心学集初入咄篇(その一〜三)』(こころ24、26、29)、石門心学会、昭32〜33。

《その一》手島先生口授話。《その二》中沢道二先生初入咄。《その三》敬説、心学五則。

同前(校訂)『忠雄問書——ある大名の家庭における心学修行の実録』、石門心学会、昭38。

石川謙・田辺肥洲(校訂)『都鄙問答』(こころ80・81・82)、石門心学会、昭42。

石川謙(校注)・石川松太郎(解説)・相原麻紀(校訂)『校注 中沢先生初入咄』、石門心学会、平21。

石田文四郎(編)『心学道話集粹』、教文社、昭11。

鳩翁道話、堵庵道話、男子女子前訓、男子女子前訓付録、松翁道話、都鄙問答。

井上豊太郎(撰)『和歌山心学資料小叢』、起雲閣、昭12。

大野政雄(校訂)『講席日誌・遊紫霄巖記(二木長嘯稿)』(飛騨春秋15)、高山市民時報社、昭45。

大町桂月(校訂)『心学道話』(学生文庫9)、至誠堂、明44。

売卜先生安楽伝授、銀のなる木の伝授、開運出世伝授、福相になるの伝授、和合長久の伝授、長命になるの伝授、鳩翁道話、続鳩翁道話。

同前(校訂)『新訂続心学道話』(学生文庫26)、至誠堂、明45。

御代の恩沢、雨やどり、売卜先生糠俵、続々鳩翁道話、齊家論。

小高敏郎・家永三郎・尾藤正英他(校注)『近世思想家文集』(日本古典文学大系97)所収、「都鄙問答」、岩波書店、昭41。

加藤周一(編)『富永仲基・石田梅岩』(日本の名著18)所収、「都鄙問答」(石田先生語録(抄))、中央公論社、昭47。

加藤咄堂(監修)・高倉嘉夫(編)『心学道話全集』六冊、忠誠堂、昭3。

《第一冊》鳩翁道話、銀のなる木の伝授、和合長久の伝授、開運出世の伝授、売卜先生安楽伝授、売卜先生糠俵。《第二冊》御代の恩沢、孝行になるの伝授、福相になるの伝授、長命になるの伝授、雨やどり、五用心慎草、目の前、松翁道話、道の研。《第三冊》心学道の話、鸚鵡問答。

《第四冊》ありべか、り、民の繁栄、銭湯新話、勸善小語、為学玉箒、身体柱立、男子女子前訓、夜話荘治。《第五冊》立身始末鑑、道得問答、都鄙問答、齊家論、やしなひ草、石田先生事蹟。《第六冊》道二翁道話、

聖賢証語国字解、案山子草、町人身体なほし、家道訓。

黒岩一郎(編)『新講鳩翁道話』、明德出版社、昭43。

黒川真道(編)『心学編』(日本教育文庫10)、同文館、明44。

都鄙問答、齊家論、我つゑ、前訓、目なし用心抄、有べかかり、手島堵庵社約、道得問答、売卜先生糠俵、売卜先生糠俵後篇、売卜先生安楽伝授、孝行になるの伝授、開運出世伝授、世わたり草、道二先生御高札道話、道二翁道話、松翁道話、心学寿草、鳩翁道話、心学道の話初篇、子守歌、心学和合歌、賤がうた、附録石田先生事蹟・手島堵庵先生事蹟・手島和庵先生事蹟。

国民文庫刊行会(編)『道話集』、国民文庫刊行会、明43。

鳩翁道話、松翁道話、民の繁栄、目の前、雨やどり、夜話荘治、勸善小語、道得問答、有べかかり、齊家論、都鄙問答。

小林庸平(校訂)『やしなひ草』、松菊山房、昭2。

埼玉県教育委員会(編)『埼玉県教育史』第二卷所収、「下野・常陸 遊説里村の道の記(大島有隣)」、埼玉県教育委員会、昭44。

坂田昭二(編)『心学道歌籠乃枝折第一集』、私家版、平10。

佐藤清太・縄田二郎(校註)『石田梅岩・手島堵庵集』(世界教育宝典——日本教育編)、玉川大学出版部、昭41。

信濃教育会(編)『心学道話選』(信濃文庫11)、信濃教育会出版部、昭23。

柴田謙堂(編)『手島堵庵全集』、明倫舎、昭6。

柴田寅三郎(編)『鳩翁遺稿』、刀江書院、昭4。

柴田武修(聞書)『鳩翁道話』、偉業館、明25。

柴田實(編)『手島和庵 朝倉雑話』、明倫舎、昭15。

同前(編)『石田梅岩全集』上・下、明倫舎、昭31〜32。

同前(校訂)『鳩翁道話』(東洋文庫154)、平凡社、昭45。

鳩翁道話、続鳩翁道話、続々鳩翁道話、鳩翁道話拾遺。

同前(校訂)『石門心学』(日本思想大系42)、岩波書店、昭46。

儉約齊家論上・下、石田先生語録(抄)、莫妄想、坐談隨筆、知心弁疑、兒女ねむりさまし、前訓、会友大旨、心学承伝之図・聖賢証語国字解序、道二翁道話卷上下、鳩翁道話一之上下・二之上下・三之上下、松翁ひとり言、朱学弁、心学五則、理学秘訣、心学奥の棧上中下巻。

同前(編)『石田梅岩全集』(改訂版)上・下、清文堂、昭47。

《上巻》都鄙問答四巻、儉約齊家論二巻、石田先生語録卷一〜卷十二。《下

卷》石田先生語録卷十三〜卷二十四、石田先生語録補遺、先生問答並門人物語、莫妄想、文藻・遺墨雜篇、書簡集、石田先生語録補遺追加、石田先生事蹟、但馬入湯道之記、年譜。

同前(編)『増補手島堵庵全集』(改訂版)、清文堂、昭48。

町人身体はしら立、坐談隨筆、知心弁疑、兒女ねむりさまし、前訓、会友大旨、我津衛、遺書講義、女冥加解、町人身体なをし、安樂問答、明德和贊、朝倉新話、新実語教、目なし用心抄、為学玉箒、為学玉箒後篇、私家なしの説、善導須知、手嶋先生口授話、論語講義、堵庵先生講義、東郭先生遺文、手嶋堵庵先生事蹟、手嶋先生遺稿答問集、東郭先生遺文追補。

清水俊(編)『愚翁道話』、同友社、明41。

白石正邦(編)『手島堵庵心学集』、岩波文庫、昭9。

心学参前舎(編)『心学道話』31・32号所収、「植松自謙先生事蹟」、昭5。

菅野則子(解題)『江戸時代女性文庫』69号所収、「心学道話家訓心得草」、大空社、平9。

大日本思想全集刊行会(編)『貝原益軒集・平賀源内集・付心学一派——石田梅岩・手島堵庵・中沢道二』(大日本思想全集5)、大日本思想全集刊行会、昭6。

田辺肥洲(校訂)『心学道の話』、協和書院、昭10。

滝本誠一(編)『日本経済叢書』第八卷所収、「都鄙問答」「齐家論」、日本経済叢書刊行会、大3。

武田勘治・田辺肥洲(編)『石田梅岩教育説選集』(日本教育文庫7)、第一出版協会、昭12。

塚本哲三(校訂)『心学道話集』(有朋堂文庫)、有朋堂書店、大3(普及版、昭20)。

鳩翁道話、続鳩翁道話、続々鳩翁道話、松翁道話、都鄙問答。

津山市立津山郷土館(編)『津山における心学史料』(津山郷土館報11)、津山郷土館、昭53。

栃木県史編さん委員会(編)『栃木県史』史料編近世三三所収、「下野・常陸遊説里村の道の記(大島有隣)」、栃木県、昭50。

中村幸彦(編)『安藤昌益・富永伸基・三浦梅園・石田梅岩・二宮尊徳・海保青陵集』(日本の思想18)所収、「齐家論」、筑摩書房、昭46。

西晋一郎『尊徳・梅岩』(大教育家文庫5)、岩波書店、昭13。

日本図書センター(編)『近世庶民教育思想 石門心学』(日本教育思想大系7)上・下、日本図書センター、昭54。

《上巻》鳩翁道話、松翁道話、民の繁栄、目の前、雨やどり、夜話荘治、勸善小話、道得問答、有べか、り、齐家論、都鄙問答。《下巻》我つゝえ、目なし用心抄、手島堵庵社約、売卜先生糠俵、売卜先生糠俵後篇、売卜先生安樂伝授、孝行になるの伝授、開運出世伝授、世わたり草、道二先生御高札道話、道二翁道話、心学寿草、心学道の話初篇、子守歌、心学和合歌、賤が歌、石田先生事蹟、手島堵庵先生事蹟、手嶋和庵先生事蹟、心学根本草、心学初入手引草、会友大旨、前訓、為学玉箒、知心弁疑、坐談隨筆、朝倉新話、安樂問弁、子弟訓、教訓我が守。

八宮齋(校訂)『松翁道話全』、図書出版、明25。

早野元光(撰)『贈正五位石田先生事蹟抄録』、参前舎、大7。

平野橋翁(聞書)『石門心学道の話(奥田寿太述)』、同盟書房、明25。

古田紹欽(校訂)『鳩翁道話』(『古典研究』417別冊付録)、雄山閣、昭14。

同前(校訂)『松翁道話』(『古典研究』512別冊付録)、雄山閣、昭15。

同前(校訂)『道二翁道話』(『古典研究』612別冊付録)、雄山閣、昭16。

又問安次郎(編)『心学道乃教(無仏著・無爵評)』、中川書房、明27。

松尾亮(訳)『DIALOGUES OF CITY AND COUNTRY』(英訳『都鄙問答』)、大阪教育図書、昭60。

守本恵観(編)『心学絵入道歌百首和解』、信行社、明19。

山田惣兵衛(編)『心学道話』、心学参前舎、昭9。

山田孝道(編)『禅門法語集』所収、「莫妄想」、光融館、明28。

山本樸峰(編)『心学全書』全八篇、文学同志会、明36〜42。

心学養性篇、心学人間篇、心学道体篇、心学道義篇、心学明德篇、心学性理篇、心学迷悟篇、心学靈性篇。

横瀬村誌編さん委員会(編)『横瀬村誌』資料編2(江戸期第二集)所収、「心学教訓歌」、横瀬村(埼玉県)、昭56。

依田喜一郎(選訂)『心学道話(正統編)』、高山房、大2。

鷲尾順敬(編)『日本思想闘争史料』第二卷所収、「都鄙問答」、名著刊行会、昭45。



## 心学一般研究書

足立栗園(編)・中島力造(閱)『近世德育 心学史要』、右文館、明32。

足立栗園『昭和心学講話』、学而書院、昭11。

石川謙『成人教育運動としての心学』、文部省社会教育局、昭5。

同前『心学講舎の普及に関する調査』、文部省社会教育局、昭6。

同前『心学教化の本質並發達』、章華社、昭6(増補版、青史社、昭57)。

同前『近世社会教育史の研究』、章華社、昭9。

同前『心学講話』、章華社、昭10。

同前『石門心学史の研究』、岩波書店、昭13。

同前『近世日本社会教育史の研究』、東洋図書、昭13(改訂版、青史社、昭51)。

同前『石門心学と現代社会思潮』(成人教育資料1)、東京府学務部社会教育課、昭16。

石川謙・小杉巖『堵庵と道二』、藻岩書店、昭16。

石川謙(編)『心学』、雄山閣、昭16~17。

《第一卷》心学概説(石川謙)、広島心学の發達(及川儀右衛門)、心学

道話の言語的性格(真下三郎)、町人生活と心学思想(長谷川鑛平)、心

学と現代生活(穂積重遠)。《第二卷》石門心学と商人意識(宮本又次)、

道話の本質とその構造(柴田謙堂)、心学と学生修練(伊豆山善太郎)、

手島堵庵とその一統(小杉巖)、静坐と会輔(田辺留蔵)。《第三卷》心

学と軍人精神(植村信男)、心学と教育(宮田菱道)、心学と日本倫理学

(野口恒樹)、道話に見えたる女性(金子彦二郎)、心学活動の現状(高

村光次)、心学と徳川封建経済政策(野村兼太郎)。《第四卷》心学と神

道(河野省三)、我無しの境地(山田敬斎)、心学教化の方法(白石正邦)、

心学者の社会事業(高橋俊乘)、隣保制度と心学(西村精一)、心学と囚

人教化(細川龜市)。《第五卷》心学の経済思想(竹中靖一)、心学と禪(伊

豆山善太郎)、心学に関する文献(小森嘉一)。《第六卷》心学と国体(河

野省三)、心学と国学(笈彦彦彦)、石田梅岩と日本精神(乙竹岩造)、心

学と仏教(古田紹欽)、鳩翁と遊翁(柴田實)、道二と有隣(石沢要)。《第

七卷》石門心学史論(勝部真長)、大阪心学の發達(柴田實)、心学と諸

侯の交渉(松平定光)、一窓と柳泓(渡辺徹)、心学研究の現状(長谷川

鑛平)。

同前『心学と現代生活』(ラジオ新書73)、日本放送出版協会、昭17。

同前『石田梅岩』(日本教育先哲叢書)、文教書院、昭18。

同前『教化の方法を話題として石門心学を語る』、広島図書、昭24。

同前『高松宮殿下の御言葉 昭和心学の在り方』、広島図書、昭24。

同前『心学——江戸の庶民哲学』(日経新書7)、日本経済新聞社、昭39。

同前(述)『心学の話——経済界の動向と新教育』、石門心学会金沢支部、昭

42。

同前『石田梅岩と「都鄙問答」』、岩波書店、昭43。

伊豆山格堂(編)『社団法人心学参前舎一覽』、心学参前舎、大13。

磯辺実『心学入門』、京都教育図書、昭17。

同前『こころの哲学——石門心学をめぐって』、京都教育図書、昭18。

稲垣国三郎『大阪心学の開祖中井利安の事蹟』、中井利安先生事蹟顕彰会、

昭6。

同前(編)『石門心学の大家鎌田一窓と鎌田柳泓』、私家版、昭7。

今井淳・山本眞功(編)『石門心学の思想』、ぺりかん社、平18。

万事物の法に随ふのみ——石田梅岩試論(山本眞功)、マスローグの教

説——石田梅岩と心学道話の「語り」(辻本雅史)、石田梅岩の「儉約」

——経済思想史からの一考察(川口浩)、石田梅岩と石門心学の経済倫

理(芹川博通)、石門心学における実践倫理の転回——梅岩から堵庵へ

(逆井孝仁)、尊性堂と飯岡義斎——梅岩学の普及と転回と(山中浩之)、

鎌田柳泓研究(木南卓一)、下野における心学の導入と農民教化の展開

(入江宏)、石門心学活動の経済背景——常陸国小田心舎の場合(齊藤

茂)、飛驒の心学運動——二木長嘯の『講席日誌』(付 大野政雄校訂)講

席日誌『遊紫書殿記』(今井淳)、文政期下館町における石門心学の青

少年教化の実際——中村兵左衛門家文書「心学こゝろのしらべ」の紹介

(長谷川伸三)、心学書の記事(木坂基)、石門心学と陽明学(吉田公

平)、教育史教育・研究と石門心学の教化思想——明治・大正初期を中

心に(石川松太郎)、研究文献目録。

岩内誠一『教育家としての石田梅岩』、立命館出版部、昭9。

同前(編)『手島堵庵先生と八文字屋自笑翁』、京都市生祥尋常小学校、大

3。

及川儀右衛門『石門心学小観』、目黒書店、昭17。

及川大溪『広島の心学』、国書刊行会、昭49。

大川周明『平民の教師石田梅岩』(日本精神研究3)、社会教育研究所、大

大阪市民局文化課(編)『大阪心学の発達——心学の社会教化と戦時生活』(大阪の先賢と史蹟1)、大阪市役所、昭19。

岡部栄信(北甘閑人)(編)『通俗心学すゝめ』、上毛新聞社出版局、昭24(復刻版、同前、平7)。

同前『通俗心学の手引』、上毛新聞社出版局、昭25(復刻版、平7)。

恩田満『古い師「売卜先生」の講話——孝行と信義のすすめ』、大学教育出版、平20。

片岡龍・金泰昌(編)『石田梅岩——公共商道の志を实践した町人教育者』(公共する人間2)、東京大学出版会、平23。

石田梅岩の普遍主義——閉ざされた国家的秩序の中から(川田耕)、経済社会化の時代における公共性追求の様相——石田梅岩の場合(高熙卓)、石田梅岩の学のダイナミズム——海保青陵との比較から(徳盛誠)、石田梅岩の「心を知る」とは——実存的主体として生を共に活きる(喜田勲)、石田梅岩の思想の公共性と言語観(ジョン・タッカー)、石田梅岩の思想——共媒、共働、共福(韓立紅)、町人の学問からみる公共哲学——石田梅岩の「商人道」を中心に(于臣)、石田梅岩から考える「公共する」実践(片岡龍)、石田梅岩を公共哲学する(金泰昌)、石田梅岩における商心商道(古藤友子)、梅岩前史、主要著作解説(片岡龍)。

川尻宝岑(講話)『心学道話』、静岡心学道話会、明38。

韓立紅『石田梅岩与陸象山思想比較研究』、天津人民出版社、平11。

木南卓一『石田梅岩私新抄』、私家版、昭60。

同前『中沢道二私新抄』、私家版、昭63。

同前『手島堵庵私新抄』、私家版、平4。

倉本長治『石田梅岩ノート』、商業界、昭53(倉本長治著作選集6『商いの倫理——石田梅岩ノート』、商業界、昭57)。

黒田源六『石門心学と石城地方』、石門心学会磐城支部、昭25。

狐峰学人『心学人の道』、忠誠堂、大6。

笹川臨風(編)『通俗心学道話』(通俗叢書)、通俗教育普及会、大4。

薩埵章『薩埵家式百五拾年史』、私家版、昭63。

同前『薩埵物語』、私家版、平2。

同前『薩埵物語(第二編)——貧乏物語』、私家版、平4。

佐藤清太『心学と社会教育』(IDE教育選書116)、民主教育協会、昭32。

柴田謙二郎(編)『社団法人明倫舎』、明倫舎、昭7。

柴田謙堂『石門心学提要』、心学修正舎、大15。

同前(述)『石門心学謙堂道話』全四冊、心学修正舎、昭3。

柴田實(編)『艾軒独言』(柴田遊翁)、心学修正舎、昭18。

同前『石田梅岩』(人物叢書94)、吉川弘文館、昭37。

同前『心学の伝統』、新教育懇話会、昭39。

同前『心学』(日本歴史新書)、至文堂、昭42。

同前『梅岩とその門流——石門心学史研究』、ミネルヴァ書房、昭53。

白石正邦『石門心学の研究』、成美堂書店、大9。

白石正邦・田辺肥洲『石田梅岩』、藻岩書店、昭16。

心学参前舎(編)『心学が拓く21世紀の日本』、心学参前舎、平13。

杉浦丘園『石門心学関係図書及資料』(雲泉荘山誌3)、私家版、昭7。

大心如空居士(長瀬彦太郎)『心学文盲真話』、私家版、明40。

高橋佐久松(編)『石門心学与現代社会思潮』(成人教育資料1)、東京府学務部社会教育課、昭16。

高橋淡水『心学修養物語』、下村書店、大9。

竹中靖一『石田梅岩の生涯と学問』(経済史話叢書1)、竜吟社、昭17。

同前『石門心学の経済思想』、ミネルヴァ書房、昭37(増補版、昭47。復刻版、平10)。

同前『日本の経営の源流——心学の経営理念をめぐる』、ミネルヴァ書房、昭52。

田中孝海(編)『石門心学関係資料集』、京都学園大学総合研究所、平12。

田中義能『心学概説』、日本学術研究会、昭7。

田辺肥洲『丹波の聖者・心学の開祖 石田梅岩先生物語』、教文社(石田梅岩先生遺徳顕彰会・心学参前舎)、昭55。

何野何兵衛(原案・瘦々亭骨皮道人(西森武城)(補綴)『心学道話 物知顔』、東京共隆社、明29)。

西晋一郎『尊徳・梅岩』(大教育家文庫5)、岩波書店、昭13。

西谷忠雄『心学大家太田垣羽山先生之伝』、私家版、昭5。

野口恒樹『心学序説』、弘文堂書房、昭19。

野村斐水(編)『心学名話泉』、想泉閣、大13。

長谷川鑛平(撰)『道二翁の道話 要約再話』、私家版、平1。

広島県振興課(編)『第1輯 広島心学の話』、広島県、昭17。

同前『第2輯 広島心学の話』、広島県、昭17。

福祿寿人『経済心学 逸話道話』、磯部甲陽堂、大8。

富士川游『石田梅岩』(新選妙好人伝第七編)、厚徳書院、昭12。

古田紹欽・今井淳(編)『石田梅岩の思想——「心」と「儉約」の哲学』、ペ  
りかん社、昭54。

石田梅岩の時代(竹中靖二)、「通俗道徳」の思想構造——「心」の哲学

成立の思想的意義(逆井孝仁)、石田梅岩論(源了圓)、石田梅岩の思

想(相良亨)、石田梅岩の「形」と「心」の問題(今井淳)、『都鄙問答』

をめぐって——その孝行論(古田紹欽)、石田梅岩と増穂残口(柴田實)、

梅岩の教学と神道(多田顕)、石川謙の石門心学史研究(石川松太郎)、

石田梅岩略年譜、心学研究文献。

堀内新泉『学生心学』、成功雑誌社、明44。

松尾音次郎『明治心学道話』、警醒社書店、明34。

森田健司『石門心学と近代——思想史学からの近接』、八千代出版、平24。

文部省社会教育局(編)『成人教育運動としての心学』(社会教育叢書26)、

文部省、昭5。

同前(編)『心学講舎の普及に関する調査』(社会教育叢書27)、文部省、昭

6。

山田敬斎『石門心学入門』、心学参前舎、昭17。

同前(述)『石門心学講話』、道義昂揚推進会、昭29。

山田惣兵衛(編)『東北心学研究』(心学道話41)、心学参前舎、昭7。

山本安蔵『大正心学国民道徳綱領』、心学明誠舎、大7。

同前『心学明誠舎の起源』、心学明誠舎、大11(改版本、昭6)。

渡辺徹『本邦最初の経験的心理学者としての鎌田鵬の研究』、中興館、昭15。

## 研究論文

青木賢次郎「尽心舎活動の一端に名教を偲ぶ」(こころ122、昭56)。

秋村生「石田梅岩——石田先生事蹟に拠る」(教育学術界、58-3、昭3)。

秋山謙蔵「心学教化と明治維新」(教育3-10、昭10)。

浅山雅司「石田梅岩の三教観について——梅岩の使用した比喩を中心に」(国

学院大学大学院紀要〈文学研究科〉29、平10)、「石田梅岩の神観念につい

て」(神道宗教17、平12)、「石田梅岩の神観念の特色」(同前178、平12)、「石

田梅岩の神道思想の形成——要因としての増穂残口」(神道古典研究所紀

要9、平15)、「近世神道の通俗教化研究の現状と課題」(国学院雑誌104

11、平15)。

足立栗園「梅岩先生の精神」(心学道話34、昭5)、「大島有隣翁の教化」(同

前40、昭7)、「徳水翁の庄内教化と雑感」(同前41、昭7)、「非常時と心

学」(心学11、昭8)、「農村教化と石田梅岩」(同前22・23、昭9)。

阿南養素「戦時に於ける心学」(心学138、昭19)。

荒木三恵「石田梅岩著『齐家論』に展開される「儉約」の教育理念について」

(日本女子大学・人間研究18、昭57)。

有馬祐政「石田梅岩の仏教観」(無尽燈8-8、昭36)。

飯塚修三「山田俊卿と心学明誠舎」(日本医史学会関西支部・医譚86、平19)。

生松敬三「町人文学と町人道徳」(東洋文化15・16、昭29)。

池田昭「ペラーにおける心学の見方——とくに日本宗教の類型論との連関に

おいて」(こころ66、昭40)。

石川謙「手島堵庵先生の湯呑と方言」(心学道話32、昭5)、「心学運動を通

ほして見たる江戸後期の社会教育」(教育論叢23-6、昭5)、「心学者手島

堵庵と中沢道二の活動」(同前25-1、昭6)、「武家階級に於ける心学の普

及と心学教化に関する諸藩の施設」(教育学術界63-2、昭6)、「心学教化

概観」(帝国公民教育協会・公民教育1-7、昭6)、「心学教化の普及」(同

前1-8、昭6)、「関東心学に於ける関口保宣と大島有隣」(心学道話37、

昭6)、「大島有隣先生詞藻」(同前40、昭7)、「大島有隣先生の生涯とそ

の事業」(同前40、昭7)、「埼玉心学発達の概況と関口保宣」(同前40、昭

7)、「東北地方に於る心学教化の発達」(同前41、昭7)、「東北地方に於

る心学分布図」(同前41、昭7)、「心学史研究の発達」(教育論叢28-6、

昭7)、「どうして心学は社会に迎えられたか」(心学3、昭7)、「武士階



- 級に於ける心学教化の特質」(同前14、昭8)、「武家階級に於ける心学教化の本質」(道德教育協会・道德教育210、昭8)、「心学普及の歴史地理的景観」(教育113、昭8)、「尾三地方の石門心学」(愛知教育51、昭8)、「心学に於ける女子教訓」(心学19、昭9)、「本多忠籌と石門心学」(同前22、昭9)、「石田梅岩の生活と其思想」(同前27、昭9)、「鳩翁の教化活動の一特色」(同前30、昭9)、「中沢道二翁の道話」(同前40、昭10)、「柴田鳩翁の生涯と其の心学思想」(法政大学日本精神史学会・日本精神史論纂2、岩波書店、昭10)、「心学思想の変遷(一・二)」(教育510、12、昭12)、「心学思想の変遷」(古典研究417、昭14)、「道話史上に於る『松翁道話』の地位」(同前512、昭15)、「石門心学と現代の教育」(愛知教育625、昭15)、「石門心学と現代の教育」(概観日本教育史、東洋図書、昭15)、「中沢道二の生涯と其の心学思想」(古典研究612、昭16)、「石門心学と現代社会思想(一〜三)」(心学116、117、118、昭17)、「極積の人生と心学」(同前125、昭17)、「最近の心学活動」(同前131、昭18)、「心学と現代生活」(同前138、昭19)、「心学教化の方法」(公民教育講座2、社会教育協会、昭22)、「経学の鳩巢と心学の梅岩」(理想218、昭26)、「心学というもの」(こころ5、昭29)、「心学の話(一・二)」(同前17、18、昭31)、「石門心学」(同前59、昭39)、「都鄙問答の基本思想」(同前84、昭43)、「心学の話——経済界の動向と新教育」(同前92・93、昭44)、「心学思想の根本問題」(岡崎女子短期大学研究報告3、昭45)、「心学道話(遺稿)」(こころ96、昭45)、「心学の話(遺稿)」(同前97、昭45)、「石田梅岩における行と思想との発展(遺稿)」(同前98、昭46)、「石門心学という名称(遺稿)」(同前99、昭46)、「起源から見た心学の精神(遺稿)」(同前106、昭48)。
- 石川松太郎「『石門心学史の研究』解説」(石門心学史の研究(第三刷)、岩波書店、昭50)、「小杉巖先生の石門心学研究」(こころ128、昭59)、「『手習教訓壁書』に採られた石門心学思想」(同前129、昭59)、「石門心学における上方と江戸」(大阪春秋72、平5)、「教育史教育・研究と石門心学の教化思想——明治・大正期を中心に」(教育哲学研究71、平7)。
- 石島庸男「心学教化思想の本質と堺「庸行舎」」(山形大学紀要〈教育科学〉711、昭53)。
- 石田一良「町人の人生観——石田梅岩の儉約論を通じて」(理想336、昭36)。
- 伊豆山格堂「禅と心学」(講座『禅』5、筑摩書房、昭49)、「心学の先駆者鈴木正三」(こころ94・95、昭45)、「川尻宝岑『坐禅之捷徑』複刊に当りて」(大乘禅575、中央仏教社、昭46)、「心学参前舎小史」(春秋166、昭50)、「下谷二長町の参前舎」(こころ129、昭59)。
- 伊豆山善太郎「心学的人間」(こころ3、昭28)。
- 市村佑一「心学道話とコミュニケーション——道二心学を中心として」(日本近世史論叢下、吉川弘文館、昭59)、「語り」コミュニケーション」(江戸の情報力、講談社選書メチエ290、平16)。
- 伊藤明子「石田梅岩——人とその教育思想」(日本女子大学・人間研究6、昭45)。
- 伊藤慎吾「奥田先生心学道話略解」(国学院大学近世文学会会報6、平12)。
- 伊藤武雄「江戸心学渡辺城之助に就て」(心学110、昭16)。
- 伊東多三郎「江戸時代の学者の生態と学者批判論」(日本歴史265、昭45)。
- 稲垣国三郎「手島先生参宮道の記」(心学道話38、昭6)、「常陸の石門心学」(茨城教育567、昭6)、「大阪の石門心学」(上方郷土研究会・上方32、昭8)。「町人文化百科論集5、柏書房、昭56)。
- 井上惠太「LCAと石門心学」(エンジン・テクノロジー216、平12)。
- 今井淳「心学の教化運動」(こころ44、昭36)、「日本の徳目と石田梅岩」(同前45、昭36)、「梅岩における儉約の意義」(同前63・64、昭39)、「石田梅岩における「法」の概念」(日本大学・精神科学4、昭40)、「正直と儉約——石門心学の思维方法の特色」(実存と社会、東京大学出版会、昭40)、「心学の倫理と論理」(近世日本庶民社会の倫理思想、理想社、昭41)、「飛騨の心学運動——二木長嘯の講席日誌」(専修大学人文科学研究月報15、昭45)、「梅岩における礼の意義」(こころ101・102、昭47)、「心学の人生哲学」(理想476、昭48)、「儉約哲学の必要性」(こころ108、昭49)、「町人の人生観——石田梅岩における形と心」(日本思想要説、文化書房博文社、昭50)、「石田梅岩」(江戸の思想家たち・上、研究社、昭54)、「経済的合理性と倫理的プライド」(道德と教育222、昭55)、「道二心学の立脚点」(こころ128、昭59)、「石田梅岩」(ぎょうせい・悠118、昭59)、「石田梅岩——実用の哲学を説いた人」(公文教育研究会・文25、平3)。
- 今井琉璃男「キリスト教と心学」(財界5011、平14)。
- 今中寛司「心は形に現わしてこそ——石田梅岩の「石門心学」と礼儀について」(日本及日本人1602、平3)。
- 今整仁太郎「山形における心学の伝承と残された文献」(山形県地域史研究27、平14)。

入江宏「農民教化の展開」(栃木県史通史編近世二、栃木県、昭59)。

岩内迂軒「兼葭慈音尼の遺跡」(心学25・29、昭9)、「脇坂義堂——心学者列伝一」(こころ40、昭35)、「鎌田柳泓(上・中・下)——心学者列伝二・三・四」(同前41、42・43、44、昭35・36)、「鎌田一窓——心学者列伝五」(同前46・47、昭36)、「斎藤全門(上・下)——心学者列伝六」(同前54・55、56、昭38)、「兼葭慈音尼——心学者列伝七」(同前57、昭38)、「大江資衡——心学者列伝八」(同前58、昭38)、「黒瀬三鼎齋——心学者列伝九」(同前59、昭39)。

岩内誠二「石田先生の父祖について」(心学道話32、昭5)、「石田先生の開講」(同前34、昭5)、「石田先生事蹟考」(同前39、昭7)、「石田先生画像について」(同前42、昭8)。

岩岡弘明「心学と有敬舎」(飛騨新道と有敬舎——岩岡家三代の足跡、電算印刷、平10)。

岩瀬忠篤「心学」の石田梅岩」(千葉大学・経済研究18・4、平16)。

植松忠博「現代に息づく「心学」の思想」(日本及日本人1627、平9)。

植村信男「明治以後の心学書」(心学4、昭7)。

魚澄惣五郎「贈与されたる人々——石田梅岩と其心学に就いて」(歴史と地理13、大7)。

梅津隼人「道の人石田梅岩先生」(心学道話34、昭5)。

梅森直之「心学というテクノロジー——人足寄場における実践を中心に」(早稲田政治経済学雑誌328、平8)。

遠藤明子「石田梅岩における人間観」(日本女子大学紀要(文学部)24、昭50)。

遠藤泰助「忍領内における心学教化」(こころ87・88・89、昭44)。

及川儀右衛門「梅岩に於ける立志と学問」(心学135、昭18)。

及川大溪「山田先生と広島心学」(こころ25、昭32)、「梅岩教学出現の史的背景」(同前73、昭41)、「石田梅岩と自由」(同前94・95、昭45)、「隨筆に見る中村徳水の道話資料」(同前98、昭46)、「中村徳水の駿遠地方における心学教化」(静岡地方史3、昭48)、「石田梅岩の儉約論」(同前109、昭49)。

大石慎三郎「『都鄙問答』の経済(商業)思想と経済政策の間」(前近代アジアの法と社会、勁草書房、昭42)。

大川良一「石田梅岩の職業思想」(職業指導31・8、昭33)。

大蔵三恵「『莫妄想』に見られる本性存養の思想」(こころ130、昭60)。

太田邦昌「江戸・明治期進化思想の研究I——鎌田柳泓および二宮尊徳」(日

本科学史学会生物学史分科会・生物学史研究59、平7)。

大野出「石田梅岩と老荘思想」(日本思想史学24、平4)。

大橋敦夫「信州須坂藩心学資料とその言語」(上田女子短期大学紀要14、平3)。

大林浩治「史料紹介「心学教諭録」」(同志社大学・社会福祉学論集3、平1)。

岡光夫「京都商人杉浦家の家則」(同志社大学・経済学論叢16・2、昭42)。

小笠原真「日本近代化」論の再検討——石門心学に見られる近代思想とその限界」(大谷学報50・2、昭45)。

岡部栄信「さるづくし——心学教え歌」(こころ15、昭31)。

小倉隆蔵「掛川に於ける心学講舎と池田孝路先生」(心学道話39、昭7)。

長田新「石門心学——そのルネッサンスを期待して」(こころ25、昭32)。

小高敏郎「都鄙問答の初版本と諸本」(こころ71・72、昭41)。

乙竹岩造「鳩翁道話の構造及び性格」(日本教育史の研究2、目黒書店、昭14)。

大槻宏樹「儉約の教育論——石門心学の精神構造」(早稲田大学教育学部学術研究14、昭40)、「梅岩の万人平等論とその周辺」(こころ87・88・89、昭44)。

大野木吉兵衛「浜松と石門心学会」(浜松短期大学研究論集15、昭49)。

大場敏男「企業の社会的貢献の思想的系譜」(日本経営教育学会全国研究大会研究報告集29、平6)。

岡部泰寿「いわき泉郷に浸透した石門心学」(こころ122、昭56)。

小山田正春「日本的経営理念の探求——石門心学の町人哲学」(こころ107、昭49)。

折原裕「江戸期における商利肯定論の形成——石田梅岩と山片蟠桃」(敬愛大学研究論集42、平4)。

甲斐広子「石門心学の成立——石田梅岩の思想を中心に」(秋田大学・秋大史学11、昭36)。

片山清一「外国人の見た石門心学(一〜三)」(こころ76、77・78、84、昭41・43)、「明治の三老の一人中村直三の農功——その基盤となった心学研究」(同前90・91、昭44)。

勝部真長「梅岩の場合」(古典研究6・2、昭16)、「石田梅岩と『莫妄想』」(日本歴史1・2、昭17)、「現代心学の精神」(こころ36、昭34)。

金子昭「心学と女性——慈音尼を手がかりにして」(大阪春秋72、平5)。

川口浩「石田梅岩の「儉約」——経済思想史からの一考察」(こころ132、昭62)、「石田梅岩」(江戸時代の経済思想(中京大学経済学研究叢書3)、勁草書



房、平4)。

川嶋恵子「山東京伝の心学もの黄表紙をめぐる」(甲南女子大学・甲南国文2、昭60)。

川田耕「石田梅岩とは誰か——自己省察から生まれる公共の思想」(京都学園大学ビジネスサイエンス研究所報6、平9)、「石門心学にみる近代的人間像(英文)」(京都学園大学総合研究所モノグラフシリーズ1、平13)。  
河村太市「長州藩心学道話の性格に関する一考察」(九州大学教育学部紀要7、昭35)。

韓立紅「石田梅岩と陸九淵の思想に関する比較研究試論」(立教大学大学院・東洋史学論集2、平8)、「中国における石門心学思想研究の現状とその展望」(季刊日本思想史65、平16)、「石田梅岩と陸象山の世界本体論及び心性思想」(国学院大学紀要44、平18)、「石田梅岩と陸象山との認識論に関する比較」(国学院雑誌107-2、平18)。

本京陸人「幕末・明治期の広島心学(上・下)——宮本愚翁の心学思想について」(芸備地方史研究115、116・117、昭52-53)。

木坂基「心学の文章と接続詞——「カルガユエニ」から「ソコデ」まで」(山口女子大学国文1、昭54)、「心学書の文章」(佐賀大学教育学部研究論文集28-2(I)、昭55)。

岸本芳雄「石門心学と神道」(こころ68・69、昭40)。

喜田勲「石田梅岩の「心を知る」とは——自己認識及び実在に関して(1)3」(上智大学・人間学紀要29、30、31、平11-13)。

北村清士「岡藩における心学の概要」(大分県地方史1・2、昭29)。

北村博司「石田梅岩の著述『都鄙問答』に描かれた経営理念」(大阪女子学園短期大学紀要30、昭61)、「石田梅岩の教説以後の教訓書に描かれた経営理念」(同前33、平1)、「脇坂義堂の経営理念——その著述を中心に」(同前35、平3)。

木南卓一「盤珪理解の一方途——堵庵の心学から」(花園大学・禅文化10・11、昭33)、「石田梅岩研究」(懐徳31、昭35)、「鎌田柳弘研究」(帝塚山大学論集5、昭48)、「石田梅岩私新抄(一〜九)」(同前42・50、昭58・60)、「中沢道二私新抄(一〜八)」(同前51・59、昭61・63)、「手島堵庵私新抄(一〜十)」(同前60・76、昭63・平4)、「中沢道二先生に学ぶ」(心学道話13、平1)。

衣笠安喜「民衆教化の浸透」(歴史教育12・12、昭39)、「石田梅岩の思想と商

人社会」(立命館大学人文科学研究所紀要59、平5)。

金成炫「近世京都商人「近江屋」上河家による手島家の継承——『年忌留書』を中心として」(京都大学・史林85-5、平14)。

熊坂圭三「石門心学に就いて」(近世日本の儒学、岩波書店、昭14)。  
熊澤恵里子「奥州平田門人早田伝之助の教育活動——心学から平田国学へ」(全国地方教育史学会・地方教育史研究28、平19)。  
倉本長治「商いの倫理——石田梅岩ノート」(倉本長治著作選集6、商業界、昭57)。

倉本初夫「石門心学とマーケティング」(季刊マーケティング・ジャーナル9-1、平2)。

黒川孝宏「石田梅岩の教え——展示、啓発活動を通じて」(京都学園大学ビジネスサイエンス研究所報6、平9)。

黒田政広「心学者による『実語教』・『童子教』演義書」(中国四国教育学会・教育学研究紀要37-1、平3)。

小池保利「手嶋堵庵『前訓』における朱子学の影響」(解釈学22、平10)。

河野省三「心学の由来」(国史講習会・中央史壇6-7、大12)、「石門心学と神道思想」(古典研究5-2、昭15)、「お伊勢様・石田梅岩事蹟」(瑞垣45、昭34)。

河野民雄「石田梅岩における思想の性格と構造——いわゆる「町人思想」の再検討」(北大史学10、昭40)。

小嶋秀夫「石門心学のアドバイザーが組み立てた子育て論(英文)」(京都学園大学総合研究所モノグラフシリーズ1、平13)。

小杉巖「稿本『石田梅岩先生雨中軒徳本夢問答』についての二三の考察」(大東文化大学紀要14、昭51)。

小谷隆一「石田梅岩の商人道」(京都学園大学ビジネスサイエンス研究所報6、平9)。

後藤三郎「心学のねらい——人の生き甲斐」(こころ84、昭43)。

後藤静雄「宗教と産業を統合する教えとしての心学」(こころ68・69、昭40)。

後藤政一「大阪心学史要略」(大阪市・東区史4文化篇、昭16)、「上方文化と心学道歌」(上方郷土研究会・上方141、昭17)。「町人文化百科論集5、柏書房、昭56)。

後藤宏行「近世におけるマス・ローグの成立——石門心学における語りの技術と発想について」(名古屋学院大学論集8-3、昭46)。

小林澄兄「福沢諭吉の家庭教育論——心学の諸家との照合」(こころ1、昭28)。  
小堀一正「心学明誠舎の歩み」(大阪春秋72、平5)。

小森嘉一「徳川幕府の文治政策と心学の発生」(古典研究47、昭14)、「心学に関する一考察——梅岩を中心として」(同前512、昭15)、「中沢道二の前訓講義に就いて」(同前612、昭16)。

小森信之「石田梅岩における天命観について」(こころ113、昭52)、「石田梅岩における天命観の一考察」(武蔵大学人文学会雑誌111、昭54)、「石田梅岩における善と悪」(こころ118、昭54)。

子安宣邦「石田梅岩における職分の倫理」(道徳と教育110、昭42)「石田梅岩と心学講義」(京都市社会教育振興財団・創造する市民38、平6)。  
西東玄「ドラッカーの経営哲学と鳩翁道話」(こころ77・78、昭42)。

齊藤茂「石門心学活動の経済背景——常陸国小田尽心舎の場合」(茨城史林4、昭50)。  
酒井重夫「心学者の巡回」(福井県・県史資料7、平9)。

逆井孝仁「石田梅岩の思想とその背景——石門心学成立の歴史的意義について(上・下)」(立教大学経済学研究1411、143、昭35)、「石門心学の意義と限界——その通俗道徳への転落の契機について」(同前1814、昭40)、「石田梅岩における通俗道徳の成立——『通俗道徳論』の再検討によせて」(日本資本主義、東京大学出版会、昭53)、「通俗道徳の思想構造——『心』の哲学成立の思想的意義」(立教大学経済学研究3213、昭53)「石門心学における実践倫理の転回——梅岩から堵庵へ」(同前343、昭55)、「近世民衆における主体の形成と前進」(日本の経済思想四百年、日本経済評論社、平2)、「経済学者としての才覚」(公文教育研究会・文25、平3)、「日本近代化における『民富』思想の源流」(立教大学経済学研究4513、平4)、「石門心学とは——石田梅岩を中心に」(大阪春秋72、平5)、「日本における『民富』の思想——石田梅岩と山片蟠桃」(金沢経済大学論集3012、平8)、「日本における『民富』思想の源流——江戸時代に学ぶ」(中央史学19、平8)。

坂田澄「石門心学者における児童観についての一考察——前訓と撫育草の子育て論から抽出した児童観を中心として」(和泉短期大学研究紀要6、昭60)。

坂本徳松「町人学としての心学」(歴史科学418、昭10)、「心学復興の現代的意義」(唯物論研究44、昭11)、「心学に於ける理論・歴史・政策——

時期に於ける学問の意義」(同前48、昭11)。

相良亨「誠実ということ」(こころ31、昭33)、「教育者としての梅岩」(同前42・43、昭36)、「現代道徳と心学」(同前58、昭38)、「石田梅岩の思想」(東京大学文学部研究報告3、昭43)、「日本人の理法のとらえ方」(日本人の理法の問題、理想社、昭45)、「石田先生語録の価値」(こころ101102、昭47)。

作道洋太郎「石門心学と日本資本主義の精神——由井常彦著『清廉の経営』を読む」(大阪春秋72、平5)、「石門心学の創始と心学明誠舎の活動」(なにわ文化研究会・なにわ大阪再発見7、平16)。

佐久間正「徳川期の職分論的特質」(国家と宗教、思文閣出版、平4)、「石田梅岩の思想」(季刊日本思想史65、平16)。

佐々木勇「丹波の聖人石田梅岩」(丹波史談121、昭61)。  
佐藤清太「安分の現代的意味」(こころ5、昭29)。

佐藤茂「庶民の漢語——心学用語調査の中間報告」(福井大学学芸学部紀要第1部人文科学10、昭36)、「心学道話の語彙——心学道話の用語序説」(近世の語彙「講座日本語の語彙5」、明治書院、昭57)、「心学道話の用語」(承前)——『身体柱立』の堵庵「附」の字音語を主として」(ノートルダム清心女子大学・古典研究10、昭58)、「心学道話の用語——手島堵庵のつづき」(同前13、昭61)、「心学道話の用語——手島堵庵について」(3)(福井大学・国語国文学25、昭61)、「心学道話の用語(9)——『身体柱立』の堵庵「附」の用語(4)」(同前26、昭62)、「心学道話の用語(10)——『身体柱立』の堵庵「附」の用語(5)」(同前27、昭63)。

真田芳雄「中学校教育における梅岩、心学について」(こころ70、昭40)。  
佐原洋「石門心学の経済倫理」(現代経済社会における諸問題、大石泰彦教授古稀記念論文集3、東洋経済新報社、平6)。

重松一義「感化院創業期における心学の役割」(こころ105、昭48)。  
柴桂子「石田梅岩と慈音尼」(こころ114、昭52)、「石田梅岩と女性」(同前129、昭59)。

柴田謙堂「ねむりさましいろは歌」(心学5、昭7)、「石田梅岩先生を憶ふ」(同前124、昭17)。

柴田寅三郎「心学教化の使命について」(心学道話34、昭5)。

柴田實「越前大野と心学」(石門心学203・204、昭18)、「梅岩の出納簿」(心学2、昭24)、「心学における道とその実践——道二先生百五十年祭に当たって」(こころ2、昭28)、「道は近きに在り」——心学道話本より」(同前

- 11、昭30)、「『都鄙問答』の成立——石田梅岩の心学の諸典拠について」(史  
林39-6、昭31)、「石田梅岩と神道」(神道学14、昭32)、「丹波八上の中  
立舎——心学者波部光孚のことども」(兵庫史学19、昭34)、「ヨーロッパの  
心学研究」(こころ41、昭35)、「鎌田柳泓の理学と石門心学」(日本歴史  
258、昭44)、「播州三木と心学」(三木市史、昭45)、「新出の梅岩先生書状  
——斎藤全門との関係をめぐって」(こころ94・95、昭45)、「鎌田柳泓の  
理学と心学」(同前96、昭45)、「石門心学について」(日本思想大系42『石  
門心学』解説、昭46)、「石田先生語録について」(同前、昭46)、「高槻藩  
の心学禁令と手島堵庵『社約』の成立」(赤松俊秀教授退官記念国史論集、  
昭47)、「石田先生語録について」(こころ101・102、昭47)、「上河宗義とそ  
の『商人夜話草』その他——堵庵研究への序章」(原弘二郎先生古稀記念  
東西文化史論叢、昭48)、「大阪の心学」(大阪の学問と教育、毎日放送文  
化双書9、昭48)、「石田梅岩と心学運動」(伝統と現代22、昭48)、「梅岩  
先生の遺されたもの」(こころ107、昭49)、「石門心学と『徒然草』」(日本  
歴史323、昭50)、「小栗了雲伝記考」(橋本博士退官記念仏教研究論叢、昭  
50)、「寛政異学の禁と心学」(関西大学文学論集創立九十周年記念特輯、  
昭50)、「堵庵心学の精髓『女兒ねむりさまし』」(昭50稿)、「小栗了雲事蹟  
考」(こころ111、昭51)、「心学における中央と地方」(季刊日本思想史3、  
昭52)、「新出の堵庵書状と『旅行用心集』」(こころ118、昭54)、「石門心  
と現代——心学開講二百五十年に想う」(同前119、昭54)、「津山藩の心学」  
(同前126、昭58)。
- 渋川久子「道話と比喩」(こころ112、昭51)。
- 島田燐子「近世の日本における商人の哲学と職業倫理——石門心学を中心と  
して」(文京女子短期大学経営学科紀要3、昭59)、「商人の哲学と職業倫  
理——石門心学を中心に」(日本人の職業倫理、有斐閣、平2)。
- 下村寿一「心学と日本精神」(心学15、昭9)、「心学と宗教」(こころ11、昭  
30)、「M・R・Aと心学」(同前13、昭30)、「心学と私」(同前38、昭35)。
- 白石正邦「石田梅岩先生事蹟を拝誦して」(心学道話30、昭4)、「大島有隣  
先生の道話」(心学道話40、昭7)。「石田先生事蹟を拝誦して」(心学135、  
昭18)。
- 末永國紀・本村希代・奥田以在「史料 近江商人の石門心学修養録」(商主心  
法道中独問答寢言」(同志社大学・経済学論叢57-2、平17)。
- 菅原真理子「平成の石門心学」(Voice 178、平4)。
- 杉浦丘園「書史学より見たる都鄙問答に就て」(心学道話34、昭5)。
- 瀬岡誠「石田梅岩と町人倫理の生成」(江戸期商人の革新的行動、有斐閣新  
書、昭53)、「石門心学の生成と発展——心学明誠舎と報徳」(京都学園大  
学ビジネスサイエンス研究所報6、平9)。
- 芹川博通「石田梅岩の儉約と自他共に立つ経済倫理」(日本の近代化と宗教  
倫理、多賀出版、平9)、「石門心学の経済倫理を考える」(いまなぜ東洋  
の経済倫理か——仏教・儒教・石門心学に聞く、北樹出版、平15)。
- 高神信也「梅岩教学と仏教」(印度学仏教学研究25-2、昭52)、「初期石門心  
学と仏教——梅岩・堵庵教学と仏教」(こころ114、昭52)、「堵庵教学と仏教」  
(印度学仏教学研究26-2、昭53)、「道二心学と仏教」(こころ116、昭53)。  
「松翁心学と仏教」(同前119、昭54)、「道二教学と仏教」(印度学仏教学研  
究27-2、昭54)、「鳩翁心学と仏教」(こころ121、昭55)、「鳩翁心学と仏教」  
(印度学仏教学研究29-2、昭56)、「初期石門心学と仏教」(牧尾良海博士  
喜寿記念 儒仏道三教思想論攷、山喜房仏書林、平3)。
- 高瀬武次郎「石田梅岩」(日本の陽明学、鉄華書院、明31)。
- 高梨信博「心学道話の漢字——『鳩翁道話』を中心に」(早稲田大学・国文学  
研究131、平12)、「心学道話の語表記について——『鳩翁道話』のばあい」(日  
本語論叢の会・日本語論叢特別号、平19)。
- 高野秀晴「手島堵庵による石門心学の創出」(日本思想史学35、平15)、「教  
化メディアとしての心学道話聞書本」(日本の教育史学46、平15)、「石門  
心学における教化統制力とその圏外——石川謙『石門心学史の研究』の再  
検討」(季刊日本思想史65、平16)、「石田梅岩の儒者意識について」(こ  
ろ・石川松太郎先生追悼号、平22)。
- 高橋晃「人さまざまの心学観——最近出版された心学関係の書物について」  
(こころ51、昭37)。
- 高村絶学「奢多と心学儉約説」(心学111、昭16)、「慈音尼の修業と其発悟」(同  
前133、昭18)。
- 高谷伸「石田梅岩」(上方151、昭19)。
- 滝川政次郎「人足寄場における心学講義」(こころ104、昭48)。
- 竹下喜久男「大坂への心学の普及」(大阪春秋72、平5)。
- 竹中靖一「石田梅岩の経済思想」(山口商学雑誌11-3、昭15)、「手島堵庵の  
経済思想」(経済史研究24-6、昭15)、「心学道話に現はれたる社会経済思  
想(1-4)」(山口商学雑誌11-6、12-1、12-2、13-1、昭15-17)、「石



門心学に於ける経済思想」(経済論叢53・4、昭16)、「石田梅岩の生涯と学問」(経済史研究25・4、昭和16)、「石門心学の学問的性格」(近畿大学商経学叢2・1、昭28)、「鎌田一窓の経済思想」(近畿大学短期大学・説苑3・7、昭29)、「鎌田一窓の金銀財宝論」(こころ10、昭30)、「石門心学の社会的基盤(上・中・下)」(近畿大学商経学叢3・3、5・1、5・2、昭30・32)、「商人と屏風」(こころ15、昭31)、「町人意識と石門心学」(近畿大学創立三十周年記念論文集、昭31)、「斎藤全門の家法」(説苑4・3、昭31)、「心学と商業社会」(こころ18、昭31)、「石田梅岩の町人哲学」(説苑5・3、昭32)、「儉約の哲学——石田梅岩の儉約論について」(近畿大学商経学叢6・2・3、昭33)、「幕藩体制下の人道主義——石田梅岩の思想について」(近世日本の経済と社会、有斐閣、昭33)、「石田梅岩の町人哲学(上・下)」(こころ27、28、昭33)、「大阪町人の学問と心学」(近世の大阪、関西経済同友会、昭34)、「手島堵庵の町人哲学」(近畿大学商経学叢7・1・2、昭34)、「由良家の家法書」(同前8・2、昭35)、「町人の自覚とヒューマニズム——石田梅岩の町人哲学を中心として」(徳川時代における人間尊重思想の系譜1、福村書店、昭36)、「商人の田地——現代の経営と心学」(こころ42・43、昭36)、「手島堵庵——人および思想(一〜四)」(同前42・43、44、45、48・49、昭37)、「石田梅岩の経済的合理主義」(近畿大学商経学叢27、昭39)、「梅岩先生の経営学」(こころ63・64、昭39)、「江戸時代の経営理念と石田梅岩(上・中・下)」(同前74・75、76、77・78、昭41・42)、「杉浦家の『家業の定め』」(同前79、昭42)、「石田梅岩の経営理念」(経済史学4・3、昭45)、「ロバート・N・ペラーの心学観」(アメリカの日本研究、東洋経済新報社、昭45)、「心学の経営理念——とくに心学関係者の家法を中心として」(近畿大学創立四十五周年記念論文集、昭46)、「町人の哲学」(こころ98、昭46)、「手島堵庵の経営理念」(甲南経済学論集14・1、昭48)、「人足寄場と心学」(こころ108、昭49)、「儉約の意味」(同前109、昭49)、「石田梅岩と町人哲学、心学運動」(日本思想史の基礎知識、有斐閣、昭49)、「上河宗義の経営理念」(近畿大学商経学叢53、昭50)、「経済と道徳——石田梅岩の人と思想」(環境科学総合研究所年報3、昭51)、「山田俊卿伝」(近畿大学短期大学論集11・1、昭53)、「明治期大阪心学の指導者山田俊卿伝(上・下)」(こころ117、118、昭54)、「町人の学問・心学ものがたり そのI——石田梅岩」(同前123、昭56)、「町人の学問・心学ものがたり そのII——手島堵庵」(同前124、昭57)、「正三や

梅岩に学ぶべきもの」(関西経協37・7、昭58)。

竹林庄太郎「梅岩と蟠桃の商業論」(関西大学商学論集19・3・4、昭49)、「石田梅岩の商業思想」(経営経済13、昭52)。

太斎隆景「心学雑記帳(一・二)」(こころ3、4、昭28)、「落語と心学」(同前4、昭28)。

田尻祐一郎「通俗道徳と『神国』日本——石門心学と富士講をめぐって」(国家と宗教、思文閣出版、平4)、「庶民社会における『徳』——石田梅岩の世界」(シリーズ思想の身体——徳の巻、春秋社、平19)。

田尻幸成「石田梅岩の思想」(熊本音楽短期大学紀要16・17、平4)。

田制佐重「心学の開祖石田梅岩」(先哲余影教育夜話、文教書院、大14)。

多田顕「我国経済思想史上より見たる心学」(こころ3、4、昭28)、「梅岩より堵庵へ——石門心学の経済思想史的一考察」(千葉大学文学部紀要文化科学1・2、昭29)、「鎌田鵬の心学について(一〜三)」(こころ28、30、32、昭33・34)、「宮本愚翁先生について」(同前36、昭34)、「心学思想の変遷とその普及に関する一考察」(千葉大学文学部文化科学紀要1、昭34)、「心学入門の機縁」(こころ38、昭35)、「石門心学者鎌田鵬について——寛政期社会思想研究の一掬」(千葉大学文学部文化科学紀要7、昭40)、「梅岩に関する小論——性・理・心について」(千葉大学教養部研究報告A・1、昭43)、「享保期社会経済思想史雑考——石田梅岩・三輪執斎について」(同前A・10、昭52)、「石川謙先生晩年の『都鄙問答』御研究について」(こころ115、昭53)、「石田梅岩と神道」(同前116、昭53)、「石田梅岩の教学と神道」(神道学96、昭53)。

太刀川清「宝暦期怪異小説の一動向——心学と怪談」(北海道大学・近世文学研究2、昭41)。

田中加代「鎌田柳泓の心学思想について」(こころ131、昭62)。

田中孝海「石田梅岩・石門心学関係資料一覽」(京都学園大学ビジネスサイエンス研究所所報6、平9)、「梅岩書簡一覽表」(同前、平9)。

田中万里子「池田立教舎」(大阪春秋72、平5)。

田中道雄「立川曾秋と『曾秋随筆』——蕉門俳諧と石門心学の接点として」(鹿児島大学教育学部研究紀要27、昭51)。

田中義能「心学と神道」(神道学雑誌11、昭6)、「大島有隣の思想」(心学道話40、昭7)。

田辺留蔵「梅岩教(心学)の本質」(法政大学日本精神史学会・日本精神史

論集2、昭6)、「心学道話について」(こころ71・72、昭和41)、「心学の静坐について」(同前79、昭42)。

田辺肥洲「中沢道二先生と妙法」(心学36、昭10)、「殉教者石田梅岩」(同前39、昭10)、「新体制と心学」(同前104、昭16)、「心学道話の展開と道二翁」(古典研究6・2、昭16)、「梅岩先生の世界観」(心学135、昭18)、百五十余年も生きつづける心学時中舎精神」(こころ87・88・89、昭44)、「石田梅岩の『都鄙問答』——その批判性と啓蒙性」(同前121、昭55)、「石田梅岩と心学」(斯文89、昭60)。

田畑要「石田勘平」その人と時代背景」(京都学園大学ビジネスサイエンス研究所所報6、平9)。

田畑真美「学」における「苦」の位置づけ——石田梅岩『都鄙問答』に即して」(富山大学人文学部紀要40、平16)。

玉川克裕「黄檗禅と心学」(こころ116、昭53)。

玉川雄司「医療人も嘯みしめたい「石門心学」の心——インフォームド・コンセントを徹底した商家の家訓」(ばんぼう251、平14)。

知切光歳「光を掲げた人 中沢道二」(こころ10、昭30)、「新興宗教と二百年前の石田梅岩」(世界仏教協会・大世界2・3、昭31)。

塚田信義「心学者の矯正事業について」(こころ100、昭47)。

辻ミチ子「京都における幕末維新の心学講舎」(京都文化短期大学紀要23、平7)。

辻井清吾「石門心学における仏教思想」(駒沢大学・仏教経済研究35、平18)。

辻本雅史「マスローグの教説——石田梅岩と心学道話の「語り」」(江戸の思想5、ぺりかん社、平8)、「梅岩学と懷徳堂知識人」(懷徳堂知識人の学問と生(懷徳堂ライブラリー6)、和泉書院、平16)。

津田秀夫「教育の普及と心学」(岩波講座・日本歴史12、岩波書店、昭51)。

土屋喬雄「石田梅岩の思想の経営理念史上の意義」(こころ65、昭39)。

壺井秀生「石門心学と「正直」の道德」(日本人の道德思想、文化総合出版、昭56)。

手島勝彦「石田梅岩(石門心学)の都鄙問答にみる経営理念について」(広島経済大学・創立三十周年記念論文集、平10)。

戸田正志「二宮尊徳と石田梅岩の産業教育の特質——総括的所見をそえて(下)」(神戸学院経済学論集13・4、昭57)、「商業・経営の教育——産業の多様性と実践 尊徳・梅岩二翁の比較」(同前26・3、平6)。

中尾敦子「石門心学」活動の現在——生涯学習としての「心学明誠舎」活動小史」(京大大学生涯教育学・図書館情報学研究3、平16)、「現在も続く心学明誠舎」(大阪春秋117、平17)。

中尾訓生「梅岩思想について」(山口経済学雑誌46・4、平10)。

中尾正治「江戸時代における町人思想の特色——特に石門心学を中心として」(仏教大学通信教育部論集2、昭42)。

長崎誠人「心」の思想史——石田梅岩再考」(「脱」の世界——正常という虚構、風媒社、平19)。

中島正利「諏訪郡を中心とした心学教化運動」(諏訪教育会・諏訪近現代史研究紀要9、昭54)。

永田広志「心学の生誕」(日本哲学思想史、三笠書房、昭13)。

中野卓郎「石門心学と「中立舎」」(丹波史談会・丹波2、平12)、「続・石門心学と「中立舎」」(同前4、平15)。

中道豪一「神道教育研究における近代石門心学の位置づけ——天地開闢解釈と皇室との関連」(明治聖徳記念学会紀要復刊47、平22)。

中村勝磨「石田梅岩先生の地位」(国学院雑誌14・11、明41)。

中山広司「心学もの黄表紙についての一考察」(北陸宗教文化8、平8)。

名倉佳之「徳島県西部における石門心学の展開」(徳島地方史研究会・史窓28、平10)。

那須非石「心学明孝舎探訪記」(心学道話37、38、昭6)。

夏山茂樹「心学・儒学・国学」(唯物論研究45、昭11)。

並松信久「石門心学の展開と勸業理念の形成——第一期京都策の思想的背景」(京都産業大学日本文化研究所紀要11、平17)。

縄田二郎「私はどうして心学に近づいたか——私の経験した昭和時代(一)四」(こころ32、33、34・35、37、昭34・35)。

難波田春夫「心学から学ぶこと」(カネボウ・経営管理資料9、昭40)、「心学に期待すること」(こころ71・72、昭41)、「経済と道德——石門心学の場合」(経済と道德、昭45)。

仁木良和「北駿地方の心学について」(日本近代化の思想と展開、文献出版、昭63)。

西尾陽太郎「石門心学の発生について——町人囊と都鄙問答との思想的関連」(九州大学・史淵50、昭26)。

仁科弘「石門心学と教育」(鹿児島短期大学研究紀要19、昭52)。

西村晃「明治初年広島藩の教化政策と村役人」(近世近代の社会と民衆、清文堂、平5)。

日本大学精神文化研究所「心学及び教訓物蔵書目録」(日本大学精神文化研究所・教育制度研究所紀要4、昭42)。

野口恒樹「純粹経験と「我なし」」(こころ4、昭28)、「行為的自己の立場と心学」(同前129、昭59)。

野崎守英「江戸時代の教育観の一面——仁斎と梅岩の場合を通して」(実存主義70、昭49)。

野沢昌康「甲斐における石門心学」(山梨郷土研究会・甲斐路36、昭55)。

延広真治「江戸落語の展開——心学道話との関連において」(国文学 解釈と教材の研究19-11、昭49)。

橋本芳契「加賀藩の心学」(こころ15、昭31)。

長谷川鑛平「心学と其の歴史的展開」(思想130、昭8)、「心学思想の転化——啓蒙より教化へ」(同前169、昭11)。

長谷川伸三「文政期下館町における石門心学の青少年教化の実際——中村兵左衛門家文書『心学心のしらべ』の紹介」(茨城県史研究16、昭45)、「北

関東農村の荒廃と農民層」(論集・関東近世史の研究、名著出版、昭59)。

八箇亮仁「石田梅岩の天人一致とその意義」(京都大学教育学部紀要21、昭50)、「梅岩学の成立とその社会的性格」(大阪薬科大学・ばいでいあ1、昭52)、「江戸時代の通俗道徳をとらえ直す——石門心学を通して」(河合文化教育研究所・研究論集2、平18)。

馬場信斎「梅岩堵庵道二の年代」(心学21、昭9)。

早野柏蔭「心学について」(心学2、昭7)、「心学の本領」(同前108、昭16)。

樋口政則「『売卜先生安楽伝授』下之巻考」(江戸のかな、名著出版、平3)。

平沢啓「文語体心学書の共通語文的性格」(和歌山大学・紀州経済史文化史研究所紀要9、平1)、「心学書の漢字(上)」(和歌山大学教育学部紀要・人文科学41、平4)、「心学書の漢字(中)」(同前42、平4)、「文語体心学書の用字法」(紀州経済史文化史研究所紀要14、平6)、「心学書の漢字(下)」(和歌山大学教育学部紀要・人文科学46、平8)。

平田小六「日本の発想の典型「石門心学」(日本人の思考と信仰10 石田梅岩と学統を継ぐ人々)」(日本及日本人15333、昭51)。

広瀬正「心学の本質に就いての一考察——我が国に於ける庶民教育」(京都女子大学・東山論叢3、昭26)。

福島雅藏「堺庸行舎と郷学所」(大阪春秋72、平5)。

福知正温「心学石田先生誕生地」道標」(京都学園大学ビジネスサイエンス研究所所報6、平9)。

福原武「石田勘平の平民学校」(改造9-7、昭2)。

藤井定義「石田梅岩の心学と懐徳堂派——利の思想の相違を中心に」(大阪市史紀要36、昭53)。

藤岡作太郎「心学の伝統」(史学雑誌5-8、9、10、明27)。

藤田彰典「京都の商家杉浦大黒屋の家訓(上・下)」(京都文化短期大学紀要1、2、昭59)。

藤田真一「俳諧と心学——嘯山の秀吟集に見る」(大阪俳文学研究会会報20、昭61)。

藤原了然「石田梅岩の神仏二教観」(龍谷大学論叢27、昭2)。

古川哲史「わたしの心学」(こころ105、昭48)、「日本精神史における石門心学」(同前131、昭62)。

古田紹欽「鳩翁に於ける仏教思想」(古典研究4-7、昭14)、「松翁の仏教思想」(同前5-2、昭15)、「道二翁の仏教思想」(同前6-2、昭16)、「石門心学と盤珪禅」(盤珪禅の研究、山喜房仏書林、昭17)、「二つでない心」(こころ1、昭28)、「堵庵について」(同前2、昭28)、「本心とは何か」(同前8、昭29)、「心を放つて得下す」(同前14、昭30)、「松翁と鳩翁の仏教」(近世の禪者たち(サーラ叢書3)、平楽寺書店、昭31)、「石田梅岩先生について——特に商人道について」(こころ63-64、昭39)、「教化について——心学にふれて」(同前73、昭41)、「求道者としての梅岩」(日本思想大系42『石門心学』月報、昭46)、「現代における心学の意義——都鄙問答を中心に」(こころ119、昭54)、「栄螺の話し」(同前129、昭59)、「中沢道二の心学をめぐる」(大倉山文化会議研究年報2、平3)。

古橋恒夫「『徒然草』と石田梅岩」(聖徳大学研究紀要・第四分冊・短期大学部Ⅲ-283、平7)。

ベラー、R・N「心学とその創始者石田梅岩」(日本近代化と宗教倫理(堀一郎・池田昭訳)、未来社、昭41。修正改題版「徳川時代の宗教」(池田昭

訳)、岩波文庫、平8)、「徳川時代の文化・社会状況における石門心学」(浜野潔抄訳)(京都学園大学総合研究所モノグラフィーズ1、平13)。

穂積重遠「時局と心学」(心学136、昭18)。

堀切実「美濃派俳論史と心学」(江戸文学26、ぺりかん社、平14)。



堀越順平「形と心」(こころ25、昭32)、「独立自尊——一休と梅岩」(同前63・64、昭39)。

堀出一郎「日本の経営の源流を尋ねて——手島堵庵『我津衛』『町人身体なをし』にみる経営思想」(麗沢経済研究11・2、平15)。

本庄栄治郎「石田梅岩から海保青陵へ、さらに神田孝平へ」(近畿大学商経学叢27、昭39)。

前田一郎「心への定着——梅岩・堵庵における心学と仏教」(論集 仏教士着、法蔵館、平15)。

前田勉「石田梅岩の心学」(大法輪77・9、平22)。

前野喜代治「『無由言』(柴田鳩翁述)のすすめ(上・下)」(こころ98、99、昭46)。

間下虎峰「広島心学の梗概」(広島県教育会・芸備教育49、昭16)。

真下三郎「心学の言葉」(国語文化2・2、昭17)、「心学」(東京大学国語国文学会・国語と国文学481、昭39)。

松田柏軒「上河淇水(上・下)」(こころ48・49、50、昭37)。

丸山眞男「石門心学の勃興とその展開」(丸山眞男講義録1、東大出版会、平10)。

三浦辰哉「心学と地域福祉(一)——浜松市における救済事業」(仏教大学院紀要22、平6)、「仏教と心学の邂逅——遠江育兒院をめぐる人びと」(日本仏教社会福祉学会年報37、平18)。

三浦雅彦「盲杖」と鈴木正三——諸本の成立と石門心学との関係の再検討」(仏教文学35、平23)。

三上参次「心学興隆に就いての所感」(心学道話34、昭5)、「大島有隣先生頌徳碑」(同前40、昭7)。

水口志計夫「たばこと心学道話」(たばこ史研究78、平13)。

水野恭一郎「心学普及に関する一考察」(国民生活史研究3、昭33)、「石田梅岩と心学運動」(日本思想史講座5、雄山閣、昭50)、「石田梅岩と石門心学」(吉備と京都の歴史と文化、思文閣出版、平12)。

水谷内徹也「日本の経営理念の萌芽——石田梅岩の『商人哲学』をめぐる」(星陵女子短期大学・星陵論苑6、昭60)、「日本型経営理念の原型——石田梅岩の『商人哲学』をめぐる」(京都学園大学ビジネスサイエンス研究所所報6、平9)。

南新二「識者の眼に映った心学」(古典研究4・7、昭14)、「思想史上の石門

心学」(同前5・2、昭15)。

源了圓「盤珪禪師と手島堵庵(1~9)」(創文156~164、昭49~50)、「盤珪禪師と手島堵庵」(こころ11、昭51)、「近世日本における宗教と経済倫理」(東海大学文明研究所・文明17、昭51)、「近世における町人の倫理」(東洋倫理思想史(現代哲学選書7)、学文社、昭52)。

宮川康子「懷徳堂思想と民衆」(日本思想史学24、平4)、「心学と懷徳堂——二つの『かわしまものがたり』」(自由学問都市大坂、講談社選書メチエ232、平14)。

三宅紹宣「幕末期長州藩の心学教化政策」(広島史学研究会・史学研究134、昭51)。

三宅守常「明治期心学の側面——神道大成教にみる心学の影響」(こころ130、昭60)、「石門心学における『和論語』の受容——心学的德育教化方法をめぐって」(大倉山論集31、平4)、「近世庶民の子どもの教育」(大倉山夏季公開講座集I、平4)、「明治心学と宗教行政」(明治聖徳記念学会紀要復刊10、平5)、「桑原冬夏『心学いろは歌』(抄出)解題」(大倉山論集35、平6)、「古賀素行道話初編」付解題」(同前36、平6)、「石門心学と道歌」(大倉山夏季公開講座集IV、平7)、「石門心学における道歌の展開と庶民倫理」(近世の精神生活、続群書類従完成会、平8)、「明治心学管見」(日本大学精神科学35、平8)、「曾根守愚『心学道話集』付解題」(大倉山論集41、平9)、「史料翻刻・五臟園寿宝堂『教訓心のゆく衛』」(日本大学医学部一般教育研究紀要26、平10)、「三条教則」関係資料(十一)『三則説教幼童手引草』柴田遊翁(明治六年十二月)『三則説教心学道しるべ』一編柴田遊翁(明治六年十月)『三則説教心学道しるべ』二編柴田遊翁(明治七年十二月)付解題」(明治聖徳記念学会紀要復刊25、平10)、「鈴木良平の精神生活考」(近代日本における倫理教育の研究、日本大学教育制度研究所、平12)、「石門心学にみる『こころ』の教授法」(庭野平和財団平和研究会、平和と宗教19、平13)、「川尻宝琴の『内部文明論』考」(こころ・石川松太郎先生追悼号、平22)。

三宅米吉「石田勘平の実業道德」(文学博士三宅米吉著述集(下)、目黒書店、昭4)。

宮田俊彦「盤珪と梅岩」(芸林3・1・2、昭27)。

宮田菱道「鳩翁道話とその教化」(古典研究4・7、昭14)。

宮本誉士「高崎正風と一徳会」(こころ・石川松太郎先生追悼号、平22)。

宮本又次「石門心学と商人意識と家法」『杉浦三郎兵衛家の家法について』(近世日本経営史論考、東洋文化社、昭54)。

村田勝彦「平戸藩庶民教育機関「心法舎」について——『心学方記』を中心に」(早稲田大学・社会科学討究27-1、昭56)。

村山吉広「石門心学の今日的省察と回帰」(日本及日本人1473、昭44)。

森岡健二「口語史における心学道話の位置」(国語学123、昭55)。

森田健司「石田梅岩『都鄙問答』における経済倫理思想——その現代的可能性と限界」(大阪学院大学経済論集23-1、平21)、「石田梅岩『儉約齊家論』における道德哲学の再検討——『都鄙問答』との比較を通して」(同前23-2、平21)、「石門心学史における手島堵庵の思想的位相——外形的制約からの決別と「本心」」(同前24-1、平22)、「中沢道二の「道話」哲学にみる存在論的転回——石門心学隆盛の時代とその真因」(同前24-2、平22)、「柴田鳩翁の「道話」における禁欲主義心学——石門心学の思想的変容と退潮」(同前25-1、平23)、「布施松翁における「知足安分」の心学と老荘思想——興隆期石門心学の思想史的な分析」(同前25-2、平23)。

矢板大安「荒井和水と鶴鳴舎」(心学道話41、昭7)。

八木意知男「『心学絵入道歌百首和解』の基礎的研究」(神道史研究54-2、平18)。

八木孝幸「『石門心学』の現代的意義に関する一考察」(上武大学商学部紀要10-2、平11)。

矢野敦子「石田梅岩における「我」の位相」(日本思想史11、昭54)、「石田梅岩の心性論」(大阪大学・日本学報1、昭57)。

山崎益吉「労働の哲学——尊徳と梅岩」(高崎経済大学附属産業研究所紀要16-1、昭55)、「商人の経済思想——石田梅岩」(日本経済思想史——日本的理想社会への道、高文堂出版、昭56)、「石田梅岩の経済思想」(経済倫理学叙説、日本経済評論社、平9)、「岡部栄信の社会経済思想——石門心学との関係において」(高崎経済大学附属産業研究所紀要36-2、平13)、「石田梅岩——心学の本質」(実心実学の発見——いま甦る江戸期の思想、論創社、平18)、「石田梅岩に見る儉約・布施の真意」(高崎経済大学論集51-3、平20)。

山田敬斎「本心と私心」(心学104、105、106、昭16)、「石田梅岩先生と知性の工夫」(同前123、昭和17)、「松目の時中舎」(こころ19、昭31)、「穂積重遠先生と心学会」(同前38、昭35)。

山田佳子「鎌田柳泓の思想——自然学と心学との関連」(愛知教育大学・日本思想史への試論一九八二年・一九八三年、みしま書房、昭59)。

山中浩之「尊性堂と飯岡義斎——梅岩学の普及と転回」(大阪市史編纂所・大阪の歴史33、平3)、「丹波屋七兵衛家と明誠舎」(大阪春秋72、平5)。

山中浩之・山本紀美「心学明誠舎蔵書目録」(大阪府立大学・上方文化研究センター研究年報9、平20)。

山本眞功「『心学五倫書』と「石門心学」——山崎維時書写『心学五倫書』をめぐって(その一・その二)」(こころ121、124、昭55-57)、「翻刻・「初人はなし」——中沢道二の「初入咄」問書」(同前125、昭57)、「万事物の法に随ふのみ——石田梅岩試論」(武蔵大学人文学会雑誌24-2・3、平5)、「現代に生きる心学——石田梅岩の世界把握」(大阪春秋72、平5)、「石田梅岩の思想とその経済倫理」(人間会議二〇〇三年冬号、平15)、「堵庵心学の社会的機能——「初入咄」の創案をめぐって」(季刊日本思想史65、平16)、「天道のめぐみ次第——江戸時代の商人達から学ぶこと」(八十二文化財団・地域文化82、平19)、「石田梅岩の生涯と教え(その一・その二・その三)」(大法論78-3、78-4、78-5、平23)。

湯川嘉津美「大蔵永常の子育て論——『絵人民家育草』を中心にして」(広島大学教育学部紀要第1部32、昭59)、「心学道話にみる近世庶民の幼児教育観」(中国四国教育学会・教育学研究紀要30、昭59)、「石門心学の子育て思想——手島堵庵を中心に」(広島大学大学院教育学研究科博士課程論文集10、昭59)。

葉坦「石門心学と浙東学派の経済思想の比較研究——石田梅岩と葉適の商品経済観を中心として(鈴木弘一郎訳)」(日本の経済思想世界——「十九世紀」の企業者・政策者・知識人、日本経済評論社、平16)。

横山雅男「石門心学の将来」(精神3-12、大15)、「心学所感」(心学道話26、昭3)、「柴田鳩翁の贈位」(同前34、昭5)。

吉田公平「石門心学と陽明学」(広島大学・東洋古典学研究4、平9)、「鎌田柳泓の『中庸首章講義筆記』について」(同前16、平15)。

米沢弘「X体験の研究(VI)——江戸時代の心学における場合、熊沢蕃山と石田梅岩を主にして」(文教大学・情報研究10、平1)。

脇谷鉄造「心学者大島有隣」(心学道話40、昭7)。

渡部武「石田梅岩の経済倫理思想の妥当性について」(跡見学園女子大学紀要21、昭63)、「『都鄙問答』における「問答」について」(同前22、平1)、「

『都鄙問答』の学問観(上・下)〔同前23、24、平2、3〕、「石田梅岩に  
おける」都」と「鄙」について〔同前25、平4〕。

(ちまもと しんご)